

現代医療に疑念を抱く看護師の妹さんの勧めで受診

治療開始3カ月でクラススイッチを体験された方の手記

「私とりウマチ性多発筋痛症」

古澤 郁子 62歳

2017年6月27日

私は62歳花畑在中です。2016年10月6日にこの病名と診断され、10月末より松本医院のお世話に行っており、今日迄のプロセスも認められました。

前兆 2016年1月中旬、起床すると左肩が挙がらず、軽い痛みも出ていました。2月整形外科科を受診。肩胛板断裂との診断で、リハビリに通院する事、家でのリハビリ体操を進められました。3月首にこりが出、家中の机がどれも合わず、羽毛枕を購入し落ち着きました。6月自宅階段を1段踏めず、左足の小指骨折。これより3週間のギブスで通りました。

経過 8月30日起床すると、首から腰迄の背中が硬直し、軽い痛みも付いていました。あまりに突然の体調の変化に驚きましたが、疲労？加齢？寝不足？と理由を探し、大善には挿えておりませんでした。が整形外科科の受診では、受付段階で肩の先生、腰は腰の先生に曜日を変え受診する用にとの事でした。背中全体が痛いのに全身を見て下さる医師は少ないのかと、漠然とした思いが残りました。肩の医師の所見は、右肩にも肩胛板断裂があり、そのせいではとの事。腰の医師は以前からの坐骨神経痛と、元々腰が原因との事。腰痛体操も指導して下さいました。両医師から痛み止めを出してもらったが、がまんの出る範囲でしたので頂きませんでした。が何かしら親然としない不安が残りました。もうした中にも冬期に入る前に左肩の手術をした方が良かったと為元(冬は除雪の作業がある為)手術日を10月6日と決定しました。

ところが入院前の血液検査でCRPが6と出て、再度血液検査をしたところ5.8と下がっており、手術は予定通りとの事。只レリウ2ヶ反だが見られずとの事でした。入院前の10月1日就寝中、右と腕部から肩にかけての激痛で目がさめました。まるで熱く焼いた火傷印を押し当てられたの様な痛みでした。手んじりとせが起すると、右手中指がアークの用に湾曲になっており驚愕でした。いつもの整形外科のレントゲンでは、リウ2ヶでは無く指を使って来た加齢によるものとの見立てでした。私は血液反応ではリウ2ヶ反応があると言っていたのに、リウ2ヶでは無いのかと、頭の中は少し混乱しました。これをもち入院の日がやって来ました。その夜病院のベッドで寝つけずに居ると右半身が硬直するかの様な感覚におかれましては、トイレへ行くのも壁がたいに、右側をズルズルと引きずる状態でした。手術日の朝には全身がたろくベントから起き上がれません。、換温で38.1度の発熱がわかり、ナースさんがあぐに主治医に連絡を取り、手術は即刻中止となりました。下熱の処置がとられ、ナースさんが何の説明もなく、これを飲んで下さいと薬が置かれ、私は体がとて辛かったので、あぐに服用しました。その後の医師の回診で、肩の手術は保留、たぶん"リウ2ヶ性多発筋痛症"であろうと告げられました。初めて耳にある病名でピンときません。ステロイドを出しませ軽く飲む用、又本格的に治療するならば専門医を紹介あると言われまして、おれ現状が受け入れられお断わりをし、退院致しました。頭の中には今朝の薬はステロイドだの、ステロイド=強い薬、良く無い薬との回診が残りました、しかし今思ふ事あるこの時画で病名が判明した事はラッキーでした。帰宅後さうやくこの病名を検索したところ、全身の自己免疫疾患、中高年に多い、全身や関節に激しい痛み、寝返えりもうて行く等、等と言った記述がありました。鳥肌が立ち恐怖心がおぼろげに自分の体にしてみても無い薬状が起きているのれと自覚しました。現実には9月以降、日いら日あり、体は不自由な状態に陥っていました。

重症期の身体状況(2016年9月~11月) 自転車に乗れない
階段が登れない、寝返えり)が打てない、衣類の着脱が
困難、くつ下がはけず、キャップがあげられない、発熱

食欲不振・体重減少(2ヶ月で6kg) 床に落ちた物が拾えない・パンや包丁が持てない等、生活は全体的に不自由でした。どちらかの手記に「ガスがこえる様な痛みが表現されている方がいらつたのかもしれませんが、私の場合は熱く焼いたさいばしが体のあちこちから差込みまれる様な痛みが毎日痛みの箇所が変わり、いら日の中でも痛みが移動する有様でした。これでも鎮痛剤は飲まずに済ませました。私は病に犯された自分の体がとても愛おしく思えるようになりました。これは大痛もせすに良く頑張ってくれたね。健康が当たり前のように暮らしてきた日々を振り返りありがとうございます自分の肉体に声を掛けました。私にはナスの妹がいます。さっらく妹に相談をしたところ、痛みに驚ろき、即座にステロイドを飲んでいいのか聞かれました。整形外科医院から処方されたプレドニソン5mgを1日2錠お(10月6日~13日)服用している旨を伝えると、妹は良い病院を捜おと言ってくれました。彼女の脳裏には、姉を標準治療でステロイド漬けには出来ない、日本のどこかにこの痛みのスペシャリストな医師がいるはずの思いが通ったようです。妹は現場を知るナスとして、現代日本の医療体制に深い疑念を抱いていました。過度な医療で死んでいくという患者さんが死んでいるとも言っています。もうした妹の一心な思いが松本医院を見つけくれたのです。妹は松本医院のホームページを讀み納得がいくのであけは行く甲に、決して強制は無いと言ってくれました。私はさっらく松本医院のホームページを開きました。息感でこの先生は本物と感じました。丸の時点で自然治癒力を引き出す治療法がこれだと思ひ、こうして信じて持つお医者様の存在にホッとする思いもありました。丸には医療や医師の原点であるはずの、患者さんの為の治療と体を直すと言った根本が不ふれ命の尊重がありました。私はさっらく高槻へ行く準備を始めました。私は5年前に夫が他界し、2人の息子達も自立。94歳の姉は施設に入所してあり、お一人様の生活です。高槻行きを決めた時には長男は海外出張中で連絡が取りがらく、次男は介護職の為すぐに休暇は取れず、友人に家族としての同伴をお願いしました。10月25日初診で松本医院を訪ねました。

松本医院 院内はレトロな雰囲気、昭和なタイムスリップしたかの用でした。漢方の臭いで天国の母を思い出しました。

診察室の奥から松本先生の姿（ごめん存じ）が
響いていました。1時間程の待ち時間で順番がきて
ました。松本先生は予想以上に個性が強烈でした。勝手
勉強も積み重ねてきた方、頭脳明晰な方、人間味あふれる方
との印象を受けました。先生の話から膠原病と言われ
驚かされました。（この時点でまだ認識が有りませんでした）
他に松本病院を知った方法、痛気を感じた自分の免責である。
又、プレドニンをあげてごめんと言われました。大丈夫ですかと
聞くと、死なへんしの返事がおかしいです。プレドニンは
松本病院へ行く事を考慮し、当日朝で0.25mgを1日
1回の服用でした。何より松本先生の真剣さ、医学と
漢方に対する情熱が力強く伝わってきました。その後友人と共に
お灸の灸灸を教わり、人生初の鍼とお灸を受け、とても
心地が良く、関節のスタートラインに立ったと言う、神性な
面持ちに存じました。鍼の治療台の上で目を閉じると癌で
関節痛をしていた夫の姿が思い起こされました。夫は最後は
うすの骨に耕りかたれただけでゆきました。私は現代医学の
バルトコンパ-に集せられたのと感じたので、忘れたい
感情が思い起こされ切なくなりしました。さて翌日札幌への
帰路はプレドニンをやめた1日目です。体の痛みより、重く重く
仕方がありません。歩く1歩1歩の足が中々進まずに、
たれたも重たい体を引きずりながら、どうにか我家へ着きました。

前日迄はプレドニンが効いていたのだと思いきや、
漢方生活 初診では大筋風濕、治打撲一方湯と咳があったので
咳止混合薬、アシクロビル400mgを1日5錠を1日4回。
他に灸灸用に紫雲膏、モグさ、線香等も購入しました。さあ人の
漢方生活です。生活はいい転がりました。漢方薬を煮出しても
最初の頃はつらさで要領を得ず、徐々に慣れてきました。
(現在は自動漢方煎じ器使用)不思議なのが、9日目の
体調は味が受かりました。これも割合合点がよいです。11月の
2度目の来院で漢方薬湯も出ました。こちらも入浴の
リズムが中々取りづらく、当初の1日おきが難かしく
週2回が自分の生活リズムに合っているようです。
漢方湯が体に良いと感じたのは、正直も一回目くらいから
でした。薬湯が体に染み込め、細胞が喜んでくれるかの
うな感触を感じました。お灸は一人生活の私自身の癒し範囲が

限られていたのを途中から市販の使用しやあいい物に切り替
又、地元にて鍼治療院を探しました。あつに良い所が、
見つかりました。丸の先生はお若い原大和友で修業を続けら
れうであ。11~12月は週3回、1~2月は週2回3月からは
週1回で通院してあります。お医者様では有りませんが
近い場所には自分の健康状況を知らう。治療院が有る事は
心強いものがあります。良くして頂き、松本先生同様に
感謝してあります。又、生活面においては、一人暮らしには
特に痛気の体質を手なずかう事の方が多くあつぶん皆様に
助けを頂きました。漢物は配薬等も利用し、コンビニの弁当の
お惣菜にも助けられました。長男は東京からの出張を増やし
私が出来なくなった家内の事、家の外廻りも手伝ってくれ、
時には高槻へ行く交通費のカンパもあり、こちらで大助かり
あつ。又、私は週2、3回子育てサロン等のボランティア活動をし
てあります。体はまっかたの事か、仲間に事情をお知らせ
しほとんと休ませに努めました。今迄は気が付かずに
寝る寝るのお茶会等の日常のさりやたい事かどつても大切で
あつ。と気が付きました。又、免疫力アップのためできる限り
大声を笑う事、や深呼吸を意識し、食事は玉ねぎや
きのこ類、良質のたんぱく質の摂取を多くし、冷たい物、
甘い物(好物であつ)葉酸の多い緑の野菜は減らしました。
漢方薬を飲み始め2週間程から便通が良くなり、排せ物
爽やかで、便秘も軽くなり、例年暖房が入り室内が
乾燥する季節はのどのイガイガ、ヒリヒリが続くのであつ
この冬はこれが無く喉がして楽で、漢方の知能か
思い、体が整つていく手に入ります。2ヶ月経過の12月末には
体につく刺すような痛みや回数もあつぶんと減りました。
が今年の冬は除雪をやる体力は戻らな。業者にお頼
いしました。2週間程の電話診療では、他の人よりアトロピルが
多くあつた点、先生曰く、アトロピル薬に心配いらへん。脈拍数
が多少多い点、先生曰く、血圧正常なら心配いらへん。
肩やむねの痛みが他の通院に比べとれ多い点、先生曰く
ヘルペスが戦つとんじへ。との解答で先生の性格にも
回数もあつた点、慣れとさしました。2017年1月3度目
松本医院の受診ではCRPが0.55とあつぶん落着いて
きてあり、手記を書く用指示されました。1月末からアト
ロピルが始め皮膚に痒みがありクラスミンケに入りました。
2月21日の電話診療から、アトロピル用の漢方
治頭痛、お湯、塗り薬として、紫雲膏、中黄膏が処方

これ 慣れている。この漢方は油の用で飲みがらいですが今は

松本理論 松本理論に触れる事は効率が不得意な私に
とっさ苦手意識が先立ちました。要は自分の病気を
知りと言う事。これがいかに重要な事柄であるかを
思い知りました。NAOKIさんの解説は岡柄が
ゴーマにあふれ、彼の人柄も表われており、とても
助けられました。この病気は膠原病とヘルペスの
戦いと言う合併の病気である事、原因はストレス。
強いストレスがかかると、本来なら免疫の正常な働き
に働くエネルギーが心を防衛する為、ストレスの原因の
方へと向く。ストレス下では副腎皮質からコルチゾールという
ステロイド系ホルモンが出る。健康時であれば脳の
視床下部の「フィードバック」により一定量に調整されるのだが
ストレス下では免疫が抑制されてしまう。コルチゾールは
免疫細胞に直接入り遺伝子の働きを変え、細胞の働きを
変える。又、漢方治療ではステロイド等の免疫抑制剤
が処方されるので(とても恐ろしい)膠原病=難病=変治不能
といった病名が出来る。こうして細胞の変容により
病気の治療どころか、わけのわからない病気になる。こ
次に免疫を考えると、細菌やウイルス、化学物質等の外敵
から人体を守る防御システム、人体は抗原に対しては種類の
抗体を作り出している。抗原に対してIGEを武器として用いると
アレルギーの症状に、又、IgGを武器として用いると膠原病の
症状となる。松本治療では漢方薬(東洋医学)により
膠原病の抗体IgGをアレルギーの抗体IGEに変換させ
(クラススイッチ)アトピーとして体外に排出させる。アトピーの
症状もやがて共存をし、自然、終天的免疫寛容へと至る。
ヘルペスとの戦いの痛は、健康時には自覚症状は無く、
人体に存在する単純ヘルペスや水痘帯状ヘルペスウイルス等が
ストレス下での自己のステロイドホルモンより迎えられる
免疫下では、あらゆる神経細胞に増殖する。しかし免疫が
遺伝子の働きを正常に修復しヘルペスを排除しようとする戦いの時に
痛みが生じ(時には耐えがたい痛み)、松本先生が良くおっしゃる
"リバウンド"くるでえ〜。である。私は幸いにステロイドの
服用が3週間程でこれのリバウンドらしい症状は感じま
せんでした。これらのヘルペスウイルスは抗ヘルペス剤
(アシクロビル)で増殖をおさえ、さらにヘルペスを殺すのは
自己の免疫で特異抗体を作り、好中菌、大食細胞、NK細胞で

報告の心算。(自分側の理解です)

こうして松本理論の一端に触れた事で、私は人体という素晴らしい生命体の神秘に魅せられた思いです。38億年の歴史を築き保ってきたと言う人の細胞。その中で免疫はあくまでも免疫としての役割を、遺伝子か遺伝子レベルにあるものの姿は、何人も犯しては行かない聖域の様に思えておりません。

近況 3月4度目の松本医院受診予定の10日程前より睡眠障害が出始めました。松本先生にお話しすると、やはりヘルペスの仕事との事。アジクロセルが1回6錠1日4回と増えました。5月に入り睡眠が落ち着き、元の1回4錠に戻りました。確かに血液検査ではCRPは0.09と正常でしたが、RF定量が36、水痘帯状ヘルペス・EIA価は16.9との数値で驚きでした。6月末5度目の受診予定で、最近では両手指の第2関節、骨盤、肩に軽い痛みが残っています。発病前に8割程度近づいて、いる感觸で毎日を感謝で暮らしてあります。私が何より喜ぶのは、自分の体を痛めずに回復に向かっている点であります。私は松本医院との御縁でつながり生かされてあります。難病で苦しむ多くの方が自己の選択で良い治療を受けたい事を望んであります。又、経済的負担も多々あり、健康保険適用の範囲が広がり事を願っています。今後の私の人生目標は出来るだけストレスをかせがない用、心、お化やかに、平穩に生き延びたいとよいかな〜と思ひ、心の鍛錬に努めます。





